

令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第10号(1月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年12月17日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
平年並か高い	平年並か多い	平年並か少ない

○1月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		12月の発生量 (平年比)	12月からの 増減	1月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(→)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(→)
(温州かんきつ)	① かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② そうか病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
(かんきつ)	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② 黒点病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	③ ミカンハモグリガ	やや少	↘	やや少	平年の発生量の推移(↘)
	④ ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
マンゴー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
キャベツ	① コナガ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
レタス	① コナジラミ類	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
かぼちゃ	① うどんこ病	やや多	→	並	平年の発生量の推移(→)
(施設野菜)	① ミナミキイロアザミウマ	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○1月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		12月の発生量 (平年比)	12月からの 増減	1月の発生量 (平年比)	
ピーマン	① ヒラズハナアザミウマ	やや多	↓	やや多	平年の発生量の推移(↓)
	② タバココナジラミ	多	↓	多	平年の発生量の推移(↓)
	③ アブラムシ類	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
トマト	① 黄化葉巻病	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	② コナジラミ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
さいじんげん (平張)	① ミナミキイロアザミウマ	多	↑	多	平年の発生量の推移(↑)
	② ハダニ類	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移(↑)
小ギク (年末出荷用)	① 黒斑・褐斑病	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	② アザミウマ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ アブラムシ類	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移(↑)
	④ カスミカメ類	多	→	多	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	12月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
たんかきんつ	サビダニ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が多発生であった。薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
（ゴーヤー）	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病の発病株が確認された。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。

令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第10号(1月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年12月17日発表: 沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
平年並か高い	平年並か多い	平年並か少ない

○1月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		12月の発生量 (平年比)	12月からの 増減	1月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	③ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
(施設ヤシ)	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	12月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
施設・立体栽培	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。
(施設ヤシ)	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。

令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第10号(1月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年12月17日発表: 沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
平年並か高い	平年並か多い	平年並か少ない

○1月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		12月の発生量 (平年比)	12月からの 増減	1月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① ハダニ類	多	↘	多	平年の発生量の推移(↘)
かぼちゃ	① モザイク病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② うどんこ病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ 細菌病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	④ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑤ ハモグリバエ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	⑥ タバココナジラミ	多	↘	多	平年の発生量の推移(↘)
へご施設ヤシ	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② 斑点病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(八重山群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	12月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。